

クラーク 盆栽ミュージアム

盆栽入門



アメリカを代表する盆
栽ミュージアムの一つ

ISSUE NO.01

盆栽の古代からの旅
中国から日本、そしてアメリカへ

アメリカ独自のスタイル
ふたつの文化が生み出した新しい表現

私たちのミュージアム
その成り立ちと歩んできた歴史

目次

盆栽の古代史	03
日本への伝来	04
日本のスタイルの発展	05
盆栽の鑑賞方法	06
アメリカの盆栽の歴史	07
アメリカンスタイル	08
クラーク盆栽ミュージアム	09

盆栽の古代史

盆栽は、自然のままの姿をミニチュアで表現する、伝統的な生きている芸術です。
「盆栽」という漢字は「盆の上に植える」という意味を持ちます。

盆栽の起源は約3000年前の中国にさかのぼります。そこでは、自然に小型化した野生の木を集め、ミニチュアの景色として鑑賞していました。これは「盆栽（pénzāi: ペンザイ）」と呼ばれ、「盆に植える」という意味がより直接的に表れています。また、景色全体の芸術表現を指す「盆景（penjing: ペンジン）」という形もあります。

その後、盆景は道教の影響を受け、「自然の本質を映す」「調和やバランスを大切に
する」「生命力を感じさせる」「古く強い木の“精神”をとらえる」といった考え方が
重視されるようになりました。





日本への伝来



1200年以上前、中国から渡ってきた仏教僧によって盆栽の技術が日本に伝えられました。禅宗の僧侶たちは、この技術を簡素さ、バランス、そして自然の真髄を象徴的に表現する精神修養として取り入れました。

これは、禅宗が強く影響を受けた道教と盆栽の結びつきを示しています。日本の鉢は最初、中国のタイプよりも深いものでした。当初、盆栽は聖職者や貴族によって行われていましたが、16世紀には人気が高まり、広く定着しました。

徳川幕府（1603年）時代には、山から自然に小型化した木を採集する「山取り」の慣習が侍たちの間で人気となりました。

日本のスタイルの発展



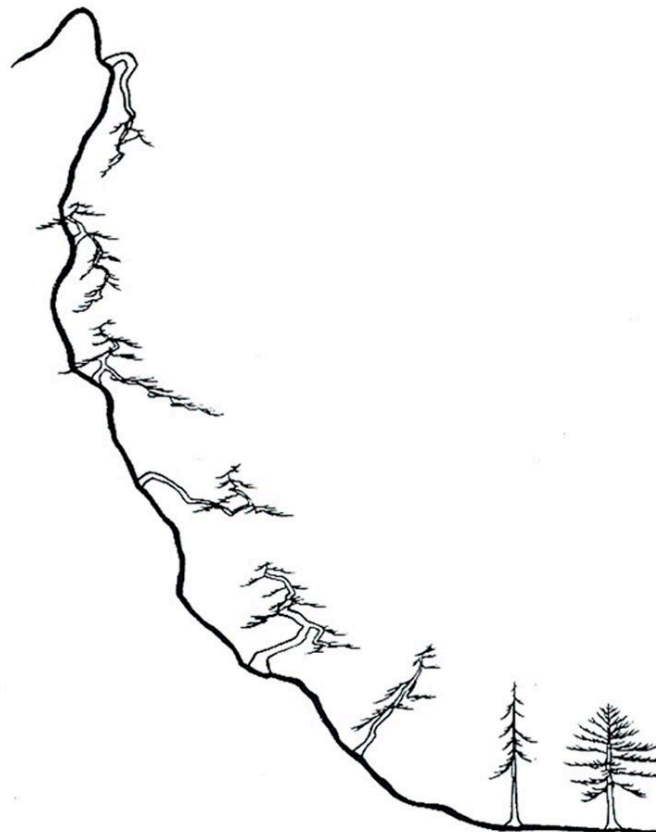
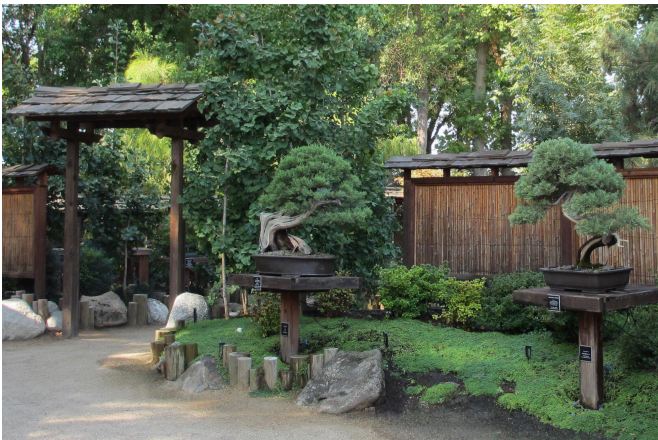
日本では竹やひもを使って木の形を整える工夫が始まり、1800年頃になると針金も使われるようになりました。

同じ頃、大阪では中国文化を研究する学者たちが集まり、自分たちの芸術を「盆栽」と呼び直しました。これは中国語の発音「pun-tsai」と区別するためであり、また深鉢を使う一般的な「鉢の木」と、浅い鉢で繊細なデザインを追求する芸術的な盆栽を区別する意図もありました。ここから盆栽は、よりデザイン性や技術を重視する芸術へと発展していきました。

盆栽の鑑賞方法

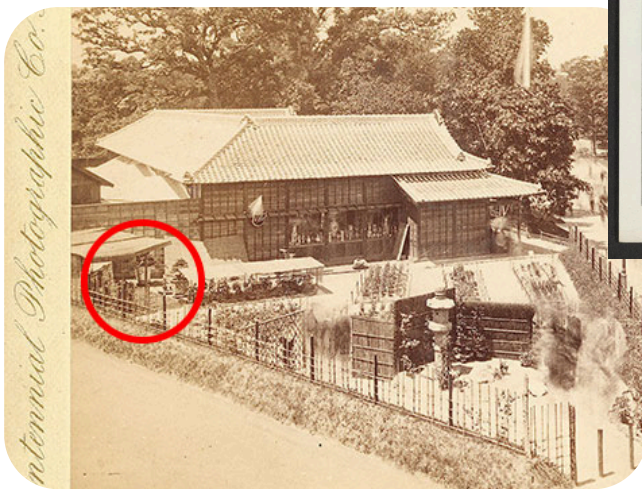
盆栽は「生きた芸術」であり、完成することではなく常に成長し続けます。そのため、日々の手入れが欠かせません。その木の特性や成長のクセを見極め、2～5年先を見据えたデザインを描くことが大切です。

鑑賞する際は、最も美しく見える正面の角度から、目線の高さで見るのが理想です。



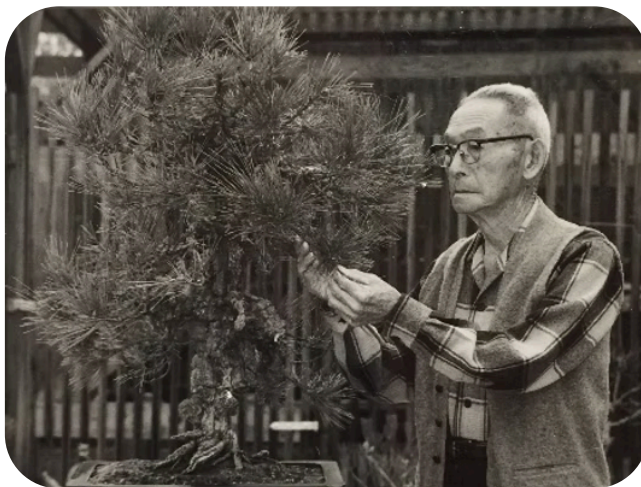
アメリカの盆栽の歴史

マンザナー戦時転住センターで育てられている盆栽の写真。



1876年のフィラデルフィア万国博覧会で撮影された盆栽の写真。

盆栽が初めて日本の外に紹介されたのは、1876年にアメリカのフィラデルフィアで開かれた建国100周年博覧会でした。その後、1878年のフランス・パリ万博でヨーロッパにも紹介されました。



カリフォルニア盆栽協会の創立メンバー5名のひとり、フランク・フサジ・ナガタ。

19世紀後半、日本からの移民によって盆栽の文化はアメリカに持ち込まれましたが、一般に広く知られるようになったのは第二次世界大戦後です。終戦後、多くの米兵が盆栽に出会い、帰国後にその魅力を伝えたことがきっかけでした。1950～60年代には、ロサンゼルス盆栽クラブやカリフォルニア盆栽協会が設立され、アメリカでの盆栽人気は急速に高まりました。

その後もインターネットやSNSの普及もあり、アメリカでは盆栽への関心が着実に増え続けています。

アメリカンスタイル



クラーク盆栽ミュージアムの展示風景。さまざまな盆栽スタイルに加え、カリフォルニアの在来種も並ぶ。

日本とアメリカの盆栽スタイルには、いくつかの明確な違いがあります。日本の盆栽は、しばしば高度な技術を示すことが目的となり、極めて洗練された造形、完璧な美を追求します。たとえば、均等に広がった根張り（ねばり）や、落葉樹における傷のない仕上げなどがその典型です。

一方、アメリカの盆栽は、自然の厳しい環境で育った木を感じさせる“荒々しい自然な姿”を重視する傾向があります。また、カリフォルニアジュニパーやモントレイサイプレスなどの在来種を使い、山取りによって採集された素材を活かすことも特徴です。ある意味では、これは盆栽が持つ古代中国の原点（自然への回帰）への“予想外の回帰”とも言えます。

クラーク盆栽ミュージアムでは、盆栽の歴史が育んできたさまざまなスタイルや技法を紹介しています。伝統から現代まで幅広い作品を収集・展示することが、当館の重要な使命です。

親善（シンゼン）日本庭園にあるクラーク盆栽ミュージアムは、クラーク日本美術文化センターから寄贈されたものです。

クラーク日本美術文化センターは、ビル&リビー・クラーク夫妻がカリフォルニア州ハンフォード市に設立した美術館で、日本国外では最大級の日本美術コレクションを所蔵していました。そこには絵画、陶芸、テキスタイル（染織）、書道など、幅広いジャンルが展示されており、盆栽コレクションもその一部でした。やがてビル氏の高齢化に伴いクラークセンターは閉館し、盆栽は2013年にゴールドデンステート盆栽連盟へ寄贈されました。

現在、クラーク盆栽ミュージアムにあった建物や茶室、周囲の壁、そして数多くの盆栽は、親善（シンゼン）日本庭園へ移され、新たな安住の地を得ています。

当館では、クラークセンターの理念を引き継ぎ、27点の盆栽をテーマごとに3～4ヶ月ごとに入れ替え展示しています。

クラーク日本美術文化センターの写真。

クラーク盆栽ミュージアム



今号の注目盆栽

今号でご紹介する注目の盆栽は、当館でも人気の高い**ラクウショウ（ヌマスギ）**です。

この木は、「サンシャイン・ステート」の愛称で知られるフロリダ州の湿地で採取され、ビル・クラーク氏から寄贈されました。制作を手がけたのは、当館のキュレーターであるボブ・ヒルヴァースです。

ラクウショウはアメリカ南東部に自生する樹木で、自然の中では高さ約10～36メートル、幹の直径は約1～2メートルにも成長します。その雄大な姿を小さな盆栽として表現していることが、この作品の大きな魅力です。





友の会に参加しませんか？

ぜひご参加ください！

クラーク盆栽ミュージアムの友の会に参加して、庭園やコレクション、そして盆栽の魅力をより深く楽しんでみませんか。

皆さまからのご支援によって、ミュージアムの運営やコレクションの維持、そして教育プログラムやさまざまなイベントを続けることができます。

友の会の会員には、交流イベントへのご招待、学習プログラム、普段は見ることのできない舞台裏を体験できる特別な機会など、一年を通してさまざまな特典をご用意しています。

クラーク盆栽ミュージアムとその活動へのご支援をお願いします

寄付する

ミュージアムの
“友の会”
にぜひご参加
ください!

皆さまのご支援は次の活動に役立ちます:

- 専門アドバイザー・プログラム
- ミュージアム&教育プログラム
- ボランティア・アウトリーチ活動
- インフラ整備と盆栽の管理